

滋賀県文化審議会次世代育成部会
第 14 回(令和元年 11 月 22 日開催)会議の概要

1 議題

- (1) 文化振興基本方針（第 2 次）に基づく施策の成果と課題について
- (2) その他

2 主な意見等

議題(1) 文化振興基本方針（第 2 次）に基づく施策の成果と課題について

＜施策の評価・総括について＞

- 今後アウトカム（成果）をどう図るかというのが重要な議論になってくる。
- 成果をはかるのは、評価と言われているが、ベストな方法はなく、皆、試行錯誤でやっている。この後、中期計画、基本方針第 2 次が終わった時に、どう成果を評価するかということが重要。
- 評価項目の数字を見ると、どの数字も横ばいの感じがする。令和 2 年度の目標設定で毎年来ていたとすると、毎年、目標を下回っているところが多いので、目標を下回った原因は何か、目標設定が適切だったのかということが後から議論すべき点。
- 求めているものは成果であって、これをやったから結果としてこの数字になった、ひいては、地域の文化芸術の活性化がこうなったという、こうなった、の部分が目に見えていない。
- 定性評価は、割といろんな研究分野でもそういうのは普通やられているので、それらを取り入れるというのは可能かと思う。
- 教師等の間に立つコーディネーター的な人の調査をすれば、もう少しやりやすくなる。
- ジャンルの的に生活文化、伝統文化を我々のブランディングのために推進していくというのが、すごく弱い。
- このジャンルだったらこういう人がいるというように、ジャンルで道筋が分けられると、とても話がしやすい。この次世代育成だったら何をやっているというのがわかりやすい。

＜次期基本方針について＞

- 本物の文化に触れるという言葉がちよっと古い。「プロの」等、他の言葉にすることはできないのか。
- 育成しようとしている人物像の具体性がない。
- 政策的に考えると、通常、ミッション、ビジョン、戦略、戦術というふうに分けて考えて、戦術にいくところになると、それは首尾一貫していないといけない。戦術に行くに従って、そのビジョン、ミッションと、不一致が起こっている。その事例が生活文化。そういったビジョン、ミッションと戦術に不一致が起こっているの、起こらないようにということを申し送りしたい。

議題(2) その他

- 都会のような財源が豊富にある県と滋賀県とを同じように比べても仕方がない。例えば東京なら近くのベッドタウンの県のような参考になる県というのが多々あるとは思いう。滋賀県と似通ったようなところというのが、今後滋賀県も取り組んでいてもらいたいと思うべきところ。

以上